

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100086		
法人名	(株)マル若		
事業所名	グループホーム円		
所在地	岐阜県多治見市小名田町3-89		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成25年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100086-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100086-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年12月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に1回の、外食・外出・カラオケ。  
3か月に1回、散髪サービスをしている。  
営業職を雇い、利用者集めをしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が地域の中で安心して生活が送れるように支援をしている。そのために、一人ひとりの思いを受け入れ、外出の機会を増やしたり、レクリエーションや作品づくりを通し、日々の生活が満足できるように支援している。今年度より、営業職員を雇用し、家庭訪問や行政との連携、病院との連絡や通院支援などのマネジメントを担当し、事業所独自の経営を展開している。また、営業職員は、対外折衝に留まらず、職員の雇用、職場環境の整備や技術の向上にも能力を発揮している。経営基盤が安定することで、利用者への質の高いサービスに反映させている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示して、理念の共有と実践を行っている。	理念は『安らぎと生きがいを感じ、自分らしさを保てる支援』を掲げている。事務所や居間、玄関に掲示し、会議の中でも全員で確認している。地域の人々とのふれ合いを大切に、自分らしい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の農家の皆様より野菜を頂き、利用者の皆さまに食べて頂いている。また、地域の食堂や商店に出掛け交流を行い、ボランティアの方々に来て頂き交流の場を提供している。	近くに公園があり、地域の人々と日々交流している。児童館で行われる子どものイベントに参加したり、ボランティアとの交流も頻繁である。近隣からは、野菜や花を差し入れてもらっている。地域交流の場を、さらに発展させるように努力している。	公民館活動や介護相談、認知症の理解に向けた活動などを通して、より地域に密着したホーム運営に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の公民館を利用して、住民の方に介護相談や認知症の勉強会をする様に働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での助言・指導等を、今後出来る様に進めている。	会議は、3ヶ月毎に開催している。行政ほか地域関係者、家族が参加している。運営状況を報告し、出席者からの要望や災害対策、外出の個別支援、地域密着型制度の理解等を話し合い運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議での市町村からの助言・指導等を頂き、サービスの内容を進めている。	市には、空き情報、事故報告や感染症事例等を報告している。運営推進会議に出席した担当者に、サービスの実情や評価の取り組みを伝え、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関は閉めていないが、18:00時以降は利用者の安全の為締めている。	契約書に身体不拘束条項を定め、全職員で徹底している。昼間は玄関を開放し、自由な行動を見守っている。安全上やむを得ない場合は、家族とよく話し合ってから行うように取り決めていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、利用者の状態把握をしながら、虐待がない様に注意してサービスの提供をしている。		

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護や成年後見人の利用者の方が入居されており、利用者を通じて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は行っているが、充分かどうかは不明である		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家庭を訪問して、要望やご意見を伺いサービス提供に反映している。	家庭訪問の専従者が家族の意見を直接聴いている。「来客用駐車場の不足」「車椅子の手入れ不十分」など、本音を語ってもらっている。意見や要望には、速やかに対策を講じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞く様にしている。	管理者は、朝礼や定例会議で、意見を聴いている。やりがいのある職場づくり、湿度管理や感染症予防等を話し合っている。ただし、インフルエンザや肺炎発症の事例があり、さらなる予防対策の必要性がある。	感染予防や衛生管理の、さらなる強化に期待したい。また、専従看護師の役割が、さらに発揮できるように期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働ける様、努力していると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践研修や管理者研修を受けるよう、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の老健の施設の、珈琲店・売店を利用して他施設の利用者との交流を取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前に、本人に確認し、家族にも了解をえて提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状態を考えながら、家族の出来ない事は代わりに職員がしている。病院受診等している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって必要なサービスか、過剰サービスか見極めケアプランに上げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であるので、利用者の状態を見ながら掃除や洗い物・ゴミ袋作り等を職員と一諸に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、面会に来て散歩に連れて行って頂いたり 行事に参加して頂き、家族と過ごす時間を作ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたデイに連れて行き、馴染みの顔に合い楽しんで頂いている。	以前利用していたデイサービスの利用者や、介護職員に会えるように支援している。近くの親戚宅や馴染みの店での買い物、喫茶店などへ継続的に出かけている。法事などの希望には、家族が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩に行き、利用者様同士キャッチボールしたり利用者同士で将棋をしたりして、楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族に連絡したり、遊びに来て下さいとお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の思いに配慮して、行事の参加・不参加を決めて頂いている。	日常生活の中での会話や表情、動きを観察し、思いや意向を把握している。外出を面倒がる人には、柔軟な対応で、思いに沿った過ごし方に努めている。家族からも、本人の情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の利用者の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日起きて生活できない方には、午後居室にて横になって頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当利用者の計画は、担当者に意見を聞きサービスの提供内容を立てている。	担当職員から利用者の状態を聴き、介護支援専門員と共に介護計画を作成している。家族からは、訪問専従者が、要望を聴いている。退院後や不穏な行動のある人は、担当医師の助言を得て、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月ケアプランの暫定版を作成し、職員間で共有してサービスの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診出来ない家族に変わり病院受診支援や個別サービスの提供に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問リハビリや訪問マッサージの提供を家族と相談して提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と緊急時の病院受診を協力医と連携している。	かかりつけ医は、利用者全員が、法人の協力医に変更している。月に2回、協力医の往診がある。緊急時には協力医に搬送できるが、さらに総合病院とも連携し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	9月末に退職され現在不在。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護サマリーの提供を、お互いに行い、医療情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	退院時、呼吸器の必要な利用者が見え、家族と施設が現在出来る事を説明し、承諾書を頂く。	重度化の指針を定め、家族と合意している。ホームで生活できる限界までとし、医療機関や介護施設に転居することを支援している。したがって、終末期の支援は、行わない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを渡して、日頃のサービスに応用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回と応急処置の訓練を年1回行い全職員が身につけている。	年に2回、火災を想定した訓練を実施している。避難誘導、通報、応急処置等を全員で体験している。地域住民と協力体制を築き、避難場所や備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴介助の時は、プライバシーを考えた言葉かけやドアを閉めて行う癖を付けている。	介助の場面では、本人の思いを尊重し、羞恥心や、こだわりに配慮し、誇りを損ねない言葉かけを行っている。職員が、あからさまな態度や表情を見せないように、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービス提供時に、確認をしながら提供を行う事で自己決定をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具合の悪い時や、本人が何もしたくないと言われた時は、居室で休んで頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品が欲しいと言われる利用者様には、小使いで購入し化粧をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は衛生的な観点から職員が行ない、後かたづけを利用者に手伝って頂いています。	職員と利用者が同じ食卓で、楽しい雰囲気の中で共に食事を味わっている。好きな食べ物や食べたい物を話題にしながら、ゆっくり時間をかけて食べている。食べることへの意欲や生きがいを感じてもらえるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	尿量の少ない利用者様には、水分を他の方より多く飲んで頂く様に声掛けしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援しています。		

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやリハパンをされて見える方でも、1日に1回以上はトイレ誘導を行い支援をしています。	個々の排泄パターンを把握し、見守りや誘導で、排泄できるようにしている。夜間は、一人ひとりの状態に応じ、ポータブルトイレやおむつを活用している。自立度の高い人は見守りで、他の人は、こまめに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示で、何名か3日以上出ない方は薬でコントロールして支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回本人の体調を考え、本人に確認して入浴をして頂いています。	週に3回の入浴日を設け、本人の希望に応じている。その日の気分によって、シャワー浴も提供している。拒む人には、タイミングを見て誘い、ゆったりと心地よい気分を味わってもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全利用者共に、自分の寝たい時間に居室に行かれ寝て頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の把握はしていませんが、状態の変化には気を付けて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や将棋・色ぬり・習字等月に何回か好きな時間に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や外出・イチゴ狩り・紅葉見学等季節に合ったサービスを提供しています。	近くの公園を日々散歩し、地域の人々と触れ合っている。買い物や喫茶店、外食等に、職員と一緒に外出し、普段は行けない、花見やイチゴ狩りなどへは、年間行事として出かけている。	

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、買い物支援の際に自分で支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からかかってきた時は、電話に出て頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節は、職員が気を付けて冷暖房を付けて過して頂いています。	共用の空間には、季節の花を生けたり、利用者との共同作業による干支(辰)のちぎり絵が展示してある。福祉作品展に入賞した、利用者や職員の自慢の大作である。空調を適度に保ち、ゆったりできるソファを配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が、利用者と一緒に将棋をしたり、話をしたりして他の利用者を巻き込み居場所作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、家で使っていた物を持ってきて下さいと説明して、箸・コップ・茶碗・布団・筆筒等持込み使用して頂いています。	居室には、個性的な表札と暖簾を掛け、自分の部屋を分かりやすくしている。馴染みのタンス、文字盤の大きな時計、洋服掛けハンガー等を持ち込み、安らぎのある居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・食堂は、共同利用になっていて自立維持の為に居室以外で利用して頂いています。また、夜間トイレに間に合わない利用者の為、ポータブルトイレを置き対応しています。		